

雲仙市文化財調査報告書 第9集

tsurukamejyo kjirojo ato
鶴亀城 (神代城) 跡

kojirokujj
—神代小路地区街なみ環整備事業に伴う発掘調査報告—



「櫻に波」

2010

長崎県雲仙市教育委員会



鶴亀城（神代城）跡と神代小路重要伝統的建造物群保存地区



雲仙市文化財調査報告書 第9集

tsurukamejyo kojirojyo ato
鶴亀城（神代城）跡

kojirokujji
 — 神代小路地区街なみ環整備事業に伴う発掘調査報告 —

2010

長崎県雲仙市教育委員会

発行にあたって

このたび平成21年度に実施しました、^{こがねくわじ}神代小路街なみ環境整備事業に伴う鶴亀城（神代城）跡発掘調査の報告書を発行することになりました。当市は平成17年10月11日（^{とねに}11日）に7町（国見町・瑞穂町・吾妻町・愛野町・千々石町・小浜町・南串山町）が合併して誕生し、「豊かな大地・輝く海とふれあう人々で築くたくましい郷土」の実現を目指しています。

鶴亀城（神代城）跡は、高原半島の北端、有明海に面した独立台地上に位置します。台地は雲仙普賢岳から伸びる舌状丘陵の先端部分で、脇を流れるみのつる川的作用によって寸断された格好となっています。丘陵は古期雲仙火山の活動により形作られた地形で、長い年月の河川浸食によって現在の姿となりました。高原半島（雲仙市・高原市・南島原市）は平成21年8月に日本で初めての世界ジオパークにも認定され、半島内のあちこちで貴重な地質学的事例が観察されます。鶴亀城（神代城）跡の成り立ちも、雲仙普賢岳の火山活動によるもので、地質学的にも貴重な事例と考えられています。古代から雲仙普賢岳とともに寄り添ってきた人々の暮らしぶりが想われます。城跡の頂上に立って周囲を見渡すと、神代小路のまちなみや眼下の有明海を越えて佐賀県・福岡県・熊本県までも一望することができます。また、南側に目を移せば雲仙普賢岳がそびえ、山頂に見える溶岩ドームが半島を形作ってきた火山活動の力強さを感じさせてくれます。

鶴亀城（神代城）跡は中世在地豪族神代氏の居城として歴史の舞台に登場します。神代氏滅亡後は佐賀鍋島藩を本藩とする「神代鍋島家」の拠点となった場所です。城の東側、武家町「神代小路」地区は、平成17年7月に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、その中心的建物である旧鍋島家住宅（通称「鍋島邸」）は平成19年6月に国の「重要文化財」に指定されました。江戸期から残るまちなみの風情は、今では忘れかけてしまった懐かしい日本人の暮らしを思い起こさせてくれます。調査において江戸期～現代に至るまでの遺構・遺物が発見され、当時の人々の暮らしの一端が垣間見えました。出土した陶磁器やガラス瓶は決して高価なものではなく、まちなみの人々が日々の日常で使用していたもので、今と変わらない生活の様子が見受けられます。

雲仙市では地域発展を目指して、各種の公共事業を行い、これまで残されてきた地域の原風景が大きく変貌しようとしております。このような情勢の中で、祖先の貴重な文化遺産を保護し、これを後世に伝えることは、私たちに課せられた重要な責務であります。本市では、このような事態に対処するため、遺跡発掘調査を行い保存・保護に努めて参りました。そして調査の成果を公開する一つの手立てとして報告書を作成いたしました。遺跡の宝庫といわれる本市にとりましては、貴重な歴史と文化を理解するうえで大きな役割を果たすものと期待しております。

最後になりましたが、今回の調査に当たり、地元地権者の皆様、工事関係者の皆様、大学・博物館関係の諸先生方ならびに長崎県教育委員会学芸文化課の皆様からのご指導に衷心から感謝申し上げます、発行のことばといたします。

平成22年3月31日

雲仙市教育委員会
教育長 塩田 貞祐

例 言

1. 本報告は平成20年度及び平成21年度に実施した神代小路街なみ環境整備事業に伴う、長崎県雲仙市国見町神代に所在する鶴亀城（神代城）跡（神代小路地区内）の発掘調査の報告である。
2. 調査は雲仙市教育委員会が担当した。調査は下記の期間実施した。
2009年2月18日～2009年3月24日（試掘）
2009年11月9日～2010年1月15日（本調査）
3. 調査体制は次のとおりである。
雲仙市教育委員会（平成20年度）
教 育 長 鈴山 勝利（～12/1）
教 育 長 塩田 貞祐（3/1～）
教 育 次 長 塩田 貞祐（～2/28）
生涯学習課長 川鍋 嘉則
課 長 補 佐 金子 悦治
文化財班班長 田中 卓郎
文化財班係長 江崎 亮太
主 査 辻田 直人
主 事 徳永 真幸
文化財調査員 山下 美郷・小野 綾夏・
大野 瑞恵
文化財整理員 早稲田一美・柳原亜矢子・
林田 崇
調 査 担 当 辻田・大野
現体制（平成21年度）
教 育 長 塩田 貞祐
教 育 次 長 山野 義一
生涯学習課長 川鍋 嘉則
課 長 補 佐 金子 悦治
文化財班班長 田中 卓郎
文化財班係長 江崎 亮太
係 長 辻田 直人
主 事 徳永 真幸
文化財調査員 小野 綾夏・大野 瑞恵・
村子 晴奈
文化財整理員 早稲田一美・柳原亜矢子・
小笹 智枝
調 査 担 当 辻田・大野・村子
4. 遺物の接合は柳原・村子・小笹が行った。遺構・遺物図版のトレースは早稲田が行った。また、図版の編集・作成は辻田・村子・早稲田が行った。写真は現地調査を大野・村子が撮影、掲載遺物写真は辻田・村子が撮影した。陶磁器類の実測は大野・村子が行い、ガラス製品の実測は小野が行った。
5. 第11図・第12図の陶磁器については、波佐見町教育委員会中野雄二氏に鑑定いただいたが、今報告の文責については、辻田・村子に帰する。
6. 現地での遺構の実測図作成は株式会社原精光に委託した。
7. ガラス製品及び生活用品の実測の一部は、熊鷹蔵文化財サポートシステム長崎支店に委託した。
8. 空中写真（図版4及び図版6）撮影業務は九州航空株式会社委託した。
9. 本遺跡の遺物及び写真・図面等は雲仙市国見町神代小路歴史文化公園 歴史民俗資料館で保管している。
10. 本書で用いた方位はすべて真北であり、国土座標は世界測地系による。
11. 現地調査および本書の刊行にあたり多くの方々からご助言いただいた、記して謝意を表します。宮本雅明（九州大学教授）、中野雄二（波佐見町教委）、長崎県学芸文化課、長崎県考古学会、サントリーお客様センター、雪印メグミルク株式会社広報部、石塚硝子株式会社、小路地区自治会、前田達見、有限会社石原建設、雲仙市観光物産まちづくり推進本部（順不同）。
12. 本書の執筆は辻田・村子が分担し、各章及び各文末に執筆者名を記した。
13. 本書の編集は、大野の協力を得て辻田・村子が行った。

目 次

巻頭図版 (中表紙)

発行にあたって

例言

本文目次

挿図目次

表目次

図版目次

第1章 調査の経緯	1 p
第1節 発掘調査にいたる経緯 (辻田)	
第2節 発掘調査の方法 (辻田)	
第3節 遺跡の地理的・地形的・歴史的環境 (辻田)	
第2章 基本土層	6 p
第1節 調査区内の土層堆積状況 (辻田)	
第3章 検出された遺構と遺物	8 p
第1節 検出された遺構 (辻田)	
第2節 検出された遺物 (辻田・村子)	
第4章 まとめ	29 p
第1節 総括 (辻田)	
第2節 まとめ (辻田)	

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図 (1/20,000)	
第2図	調査区配置図 (1/5,000)	3
第3図	調査区配置図及び遺構配置図 (1/200)	4
第4図	調査区土層断面図 (1/100) (配置図1/400)	7
第5図	旧道路①検出状況 (1/100)	8
第6図	旧道路②検出状況 (1/50)	10
第7図	建物①検出状況 (1/50)	11
第8図	建物②検出状況 (1/50)	12
第9図	石垣及び石列①・石列②検出状況 (1/50)	13
第10図	土坑検出状況 (1/25)	14
第11図	通路跡最北端付近一括出土遺物 (土師器・陶磁器) (1/3)	17
第12図	土抗1 (SX-1) 出土遺物 (陶磁器) (1/3) 31のみ (1/2)	19
第13図	旧水路跡出土遺物 (ガラス製品) (1/3)	23
第14図	旧水路跡出土遺物 (ガラス製品及び生活用品) (1/3)	27
第15図	中央橋形部分の道路・水路の変遷 (1/600)	31

表 目 次

第1表	出土遺物観察表	34
-----	---------	----

図 版 目 次

中表紙図版（カラー） 鶴亀城（神代城）跡と神代小路重要伝統的建造物群保存地区

本文中図版（モノクロ）

9頁 旧水路に詰め込まれた礫 旧水路に詰め込まれた礫と畑地縁の石列

旧水路に詰め込まれた石と旧道路①

14頁 通路跡検出状況（北側半分） 土坑半裁状況（土坑1：SX1）

図版1（モノクロ）

遺跡上空写真（昭和36年国土地理院）

図版2（モノクロ）

遺跡上空写真（昭和22年頃米軍撮影）

図版3（モノクロ）

遺跡上空写真（昭和36年国土地理院）

図版4（カラー）

調査区上空写真

図版5（カラー）

出土遺物写真

図版6（カラー）

上段

調査区上空写真（北より）

下段

調査前風景（コスモス）

調査前風景（本丸方向）

図版7（カラー）

試掘風景（H20. 2月緋楽桜と鶴亀城（神代城）跡本丸）

既存道路の掘削

調査区近景

旧道路①（上小路側より）

旧道路①（東より）

旧道路①（玉砂利舗装跡）

旧道路②路肩石列

建物基礎調査風景

図版8（カラー）

建物基礎遺構

建物基礎遺構と石列①

石垣と石列②

建物基礎遺構（西隅）

建物基礎遺構

建物基礎遺構（東隅）

建物基礎半裁（東隅）

基礎遺構完掘

図版9（カラー）

建物基礎遺構（東から1間目）

左写真調査風景

上写真完掘

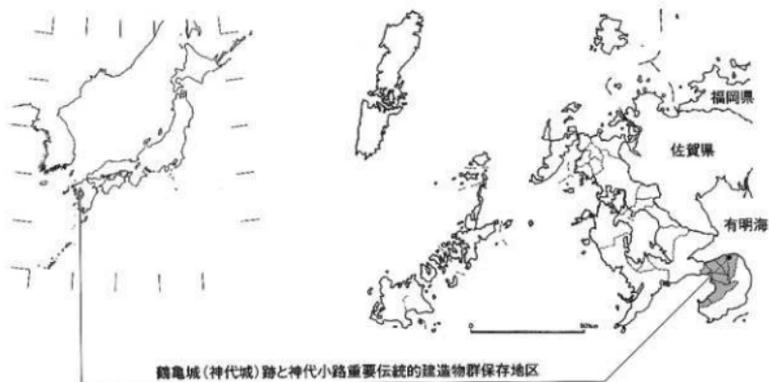
建物基礎集石内容物

江戸期遺物集中地点

現地説明会（H21. 12. 20）

江戸期からの道路を歩く

調査後の掘削



第1図 遺跡位置図 (1/20,000)